

# やさい週間情報(第41号)

平成30年 1月26日(金)  
全農あおもり やさい花き課

品名 ながいも No.1

事務所	主力地	主力等級	現在の価格	来週の予想価格	市場在庫状況	小売り状況	販売状況
東京	本県産	A4L	3,500~3,300	3,500~3,300	-	1本売り (2L・L) 398~298円	北海道、本県産ともに入荷量はそれほど多くなく、安定的な入荷となっている。量販店を中心に売価設定は年末以降変化がなく、全体的に荷動きが鈍いため、流通在庫も徐々に増えてきている。こうした状況下で各等級の価格差がないことから比較的入荷の安定しているA・B品の太物をカット販売するところも徐々に増えており、3L・2L級を中心に幾分荷動きも出てきているが、それほど活発な動きとはなっていない。 天候不順で秋冬野菜の入荷が不安定で相場も高騰しており比較的稳定な入荷となっている「ながいも」については、都内量販店で販促活動を促し、売場の確保および荷動きの良化に努める。
		A3L	3,500~3,300	3,500~3,300			
		A2L	3,600~3,500	3,600~3,500			
		A L	3,600~3,500	3,600~3,500			
		A M	3,200~	3,200~			
		B4L	3,300~3,200	3,300~3,200			
		B3L	3,300~3,200	3,300~3,200			
		B2L	3,400~3,200	3,400~3,200			
		B L	3,400~3,200	3,400~3,200			
		B M	3,000~	3,000~			
		C2L	3,000~2,800	3,000~2,800			
		C L	2,800~2,600	2,800~2,600			
名古屋	本県産 北海道産	A4L	3,500~	3,500~		1本売り 398~298円	本県産および北海道産中心の販売となっている。 他品目に比べ安定した入荷が見込まれることから、一定の売場は確保されている中、A・B品の太物を中心にカット売りでの企画は入っているものの、気温が低い日が多く末端消費が鈍りつつある。 来週についても、末端での荷動きが鈍い傾向が予想されるものの、消費宣伝会も提案しながら荷動きの良化に努める。
		A3L	3,500~	3,500~			
		A2L	3,500~	3,500~			
		A L	3,500~	3,500~			
		A M	3,200~	3,200~			
		B4L	3,300~	3,300~			
		B3L	3,300~	3,300~			
		B2L	3,300~	3,300~			
		B L	3,300~	3,300~			
		B M	3,000~	3,000~			
		C2L	3,000~	3,000~			
		C L	2,800~	2,800~			

品名 ながいも No.2

事務所	主力地	主力等級	現在の価格	来週の予想価格	市場在庫状況	小売り状況	販売状況
大阪	本県産 北海道産	A4L	3,500~3,300	3,500~3,300		カット 78~58円/100g	北海道産および本県産の販売。 量販店での売場は、1本売りがほぼ見られなくなり、カット売りが中心となっている。そのことに伴い、4L~2Lは荷動きが良く、Lの引合いは弱くなってきている。また、ほぼ毎日のように量販店のチラシに掲載されており、売込む体制は活発であるものの、寒波の影響から末端消費は鈍ってきつつある。 来週についても、気温の低い日が続く予報となっているが、北海道産・本県産とも入荷量は少ないことから、価格は保合推移となる見込み。
		A3L	3,500~3,300	3,500~3,300			
		A2L	3,500~3,300	3,500~3,300			
		A L	3,600~3,500	3,600~3,500			
		B4L	3,300~3,000	3,300~3,000			
		B3L	3,300~3,000	3,300~3,000			
		B2L	3,200~3,100	3,200~3,100			
		B L	3,200~3,100	3,200~3,100			
		C2L	3,000~2,800	3,000~2,800			
		C L	2,600~2,500	2,600~2,500			
九州	本県産	A4L	3,500~3,400	3,500~3,400		カット 100g 78~58円	寒波の影響により、青果物全般に入荷量が少ない品目が多い中、ながいもの入荷量も多くはないが、規格を問わず荷動きが鈍く、価格は一段下げとなっている。 量販店によっては特売も見られ、売価の下げにつながっているが、売場の拡張までには至っていない。 消費宣伝も始まり、消費減退期の食べ方を提案し、また、柔軟な価格帯によって売場の拡張につなげていく。
		A3L	3,500~3,400	3,500~3,400			
		A2L	3,400~3,300	3,400~3,300			
		A L	3,300~3,200	3,300~3,200			
		B4L	3,300~3,200	3,300~3,200			
		B3L	3,300~3,200	3,300~3,200			
		B2L	3,300~3,200	3,300~3,200			
		B L	3,100~3,000	3,100~3,000			
		C2L	3,000~2,800	3,000~2,800			
		東北	本県産 北海道産	A4L			
A3L	3,500~3,400			3,500~3,400			
A2L	3,500~3,400			3,500~			
A L	3,600~3,500			3,600~3,500			
B4L	3,200~3,000			3,200~3,000			
B3L	3,200~3,000			3,200~3,000			
B2L	3,300~3,200			3,300~3,200			
B L	3,300~			3,300~			
C2L	3,000~2,800			3,000~2,800			
C L	2,500~			2,500~			

品名 にんにく No.1

事務所	主力産地	主力等級	現在の価格	来週の予想価格	市場在庫状況	小売り状況	販売状況
東京	本県産	A 2 L A L A M	2,300~2,200 1,800~1,700 1,600~1,500	2,300~2,200 1,800~1,700 1,600~1,500	—	L 1 P 298~258 円 M 1 P 198~178 円 中国産 3 P 100 円 スペイン産 1 P 158~98 円	徐々に入荷量は増えてきているものの、全体的に余剰感はなく、荷動きはまずまずで相場については保合での推移となっている。L・M級については価格がこなれてきたことから荷動きは良いものの、これまで高値で推移してきた2L級については若干ではあるが、荷動きは鈍化しつつある。これまで極端な増加もみられず推移してきたことから保合で推移したものの、今後、入荷が増え続ける状況が続けば相場の下げが想定される。そのため産地状況の情報共有を図り、状況にあわせた価格設定を行いながら売場の拡張や荷動きの良化に努める。
名古屋	本県産	A 2 L A L A M B 2 L B L B M	2,200~ 1,800~ 1,600~ 2,000~ 1,700~ 1,500~	2,200~ 1,800~ 1,600~ 2,000~ 1,700~ 1,500~		L 1 P 298~198 円	本県産中心の販売となっている。管内への入荷量は大きく変わっていないものの、青果物全般の高値傾向による末端消費の鈍さから、全般に荷動きが鈍化傾向にあり、仲卸段階での在庫を抱えながらの販売となっている。来週についても、月末を控えていることもあり全般に引合いは弱く、弱含みでの販売が見込まれる。
大阪	本県産	A 2 L A L A M	2,400~2,200 2,000~1,800 1,800~1,600	2,400~2,200 2,000~1,800 1,800~1,600		L 1 P 298 円	本県産中心の販売。管内への入荷量が増えたことで、品薄感は解消されてきている。また、他品目の高値の影響からにんにくについても荷動きが鈍化してきたことと、それに伴って流通在庫が増えてきていることから、全体的に弱含みでの販売となった。今後、市場出荷量が増えるとの見通しがあるため、増量の程度にもよるが弱含みでの販売となる見込み。
九州	本県産	A 2 L A L A M	2,300~2,200 2,000~1,800 1,700~1,500	2,300~2,200 2,000~1,800 1,700~1,500			ガス冷および氷温庫への入庫が始まったことから、市場流通量は抑制されているが、高値基調と青果物全般に荷動きが鈍い影響もあって、弱めの販売となっている。今後は、ながいもの消費宣伝が始まっており、にんにくの売場も前面に提示し、柔軟な価格帯によって荷動きが悪くならないように努める。

品名 にんにく No.2

東北	本県産	A 2 L A L A M	2,300~2,200 2,000~1,800 1,600~	2,300~2,200 2,000~1,800 1,600~1,500	なし	L 1 P 198円	<p>今週は、本県産の入荷が徐々に増加としたことから、市況は弱含みで推移した。県内市場へは、個選の持ち込みも増量しており、発根等の発生も多いことから、荷動きは緩慢。依然として、M級に関しては発生率が高く、市場・仲卸在庫が残っている状況。</p> <p>来週については、本県産の出荷量が増加となることから、全体的に市況は弱含み推移の見込み。</p>
----	-----	---------------------	--------------------------------------	---	----	---------------	---

品名 ごぼう No.1

事務所	主力産地	主力等級	現在の価格	来週の予想価格	市場在庫状況	小売り状況	販売状況
東京	本県産 茨城県産	本県産 (10K) A 2 L A L A M  (4K) A 2 L A L A M	1,500~1,400 1,800~ 2,000~  500~ 800~ 900~	1,500~1,400 1,800~ 2,000~  500~ 800~ 900~		L 1 本 168~198円	<p>本県産中心に茨城県産の販売となっている。</p> <p>全体的に入荷が少ない状況が続いているが、荷動きは鈍い状況が続いている。とりわけ3L・2L級についてはこれまで同様、加工業務関係からの引合いが弱く、一方でL・M級については量販店向けとして荷動きはある。相場は3L・2L級は弱め、L・M級は保合での推移となっている。</p> <p>入荷量が少ない状況が続いているため売場面積も狭く、売れ行きも鈍い状況が続いている一方で、新ごぼうや茨城県産の入荷は順調なことから、しばらくは現在の販売状況は変わらない見込み。そのため、状況を見極めながら柔軟な価格設定を行い、本県産の売場確保、荷動きの良化に努める。</p>
名古屋	本県産 九州産	A M A 2 M A S A 2 S	2,300~2,200 2,500 1,800~1,600 1,300~1,200	2,300~2,200 2,500 1,800~1,600 1,300~1,200		2 M 2 本入 198~158円	<p>本県産・九州産（新ごぼう）中心の販売となっている。</p> <p>管内への入荷がやや減少していることから、量販店では定番の2Mの2P以外にも、Sの3Pの売場も併せての販売となっている。市場によってはやや入荷の不足感はあるものの、末端の動きは緩慢なことから、概ね保合での推移となっている。</p> <p>来週についても、入荷量も大きくは変わらない見込みから、保合での販売が続く見込み</p>

品名 ご ぼ う No. 2

事務所	主産地	主等力級	現在の価格	来週の予想価格	市場在庫状況	小売り状況	販売状況
大阪	本県産 関東産 九州産	A 3 L A 2 L A L A M A 2 M A S A 2 S	1,200~1,000 1,500~1,300 2,200~2,000 2,300~2,200 2,600~2,500 1,800~ 1,400~1,300	1,200~1,000 1,500~1,300 2,200~2,000 2,300~2,200 2,600~2,500 1,800~ 1,400~1,300		2 M ハーフ 158~138 円 / P  S 2 P 198 円 / P	<p>本県産・関東産と九州産（新ごぼう）の販売。 引続き、太物の荷動きは鈍いものの、量販店向けのその他の階級では気温低下に伴った需要の高まりと、入荷量が少ないことから引合いは強い状況となっている。しかし、鍋物等の商材が高値であることと、ごぼうの売価も高止まりしていることから、今後、需要が落ち着いていく懸念がある。</p> <p>来週についても、量販店向けのM・2Mを中心に引合いは強いと想定され、全体的には保合推移となる見込み。</p>
九州	本県産	A 2 L A L A M	1,500~1,300 2,200~2,000 2,600~2,400	1,500~1,300 2,200~2,000 2,600~2,400		2 P 198 円 ~ 158 円	<p>やさい全般に売価高の品目が多く、また、寒波の影響から荷動きが鈍い中、ごぼうについても弱めの価格帯で推移している。</p> <p>業務・加工関係は、本県産指定で一定量の納品となっているが、量販店においては鹿児島県産等九州産地との併売となっており、発注は少ない。</p> <p>今後、鹿児島県離島物の入荷が徐々に増となる見込みだが、流通量は多くはなく、また、本県産も週間ベースの入荷量に大きな変化はないことから、弱保合での価格帯で推移する見込み。</p>
東北	本県産	4 k g A 3 L A 2 L A L A M	400~ 600~500 700~ 1,000~900	400~ 600~500 700~ 900~800			<p>本県産中心に一部九州産の洗いごぼうの販売。 引続き、本県産の入荷量は変わらず、少ない状況が続いている。入荷量が少ない中ではあるが、末端の荷動きは、やや鈍めで推移していることから、市況は保合推移となっている。</p> <p>来週についても、入荷量の増加は無いことから、市況は保合推移の見込み。</p>